

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 25 日現在

機関番号：34426

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24617023

研究課題名(和文) グローバル・マイグレーションと在外日本人の老いに関する文化人類学的研究

研究課題名(英文) An Anthropological Study on Japanese Global Migration and Ageing in Europe

研究代表者

金本 伊津子 (TOYAMA (KANAMOTO), ITSUKO)

桃山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：60280020

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、グローバル・マイグレーションによって複数の文化を経て老いを迎える海外(イギリス、オランダ、スウェーデン、ドイツ)在住の日本人の老いに焦点を当て、多文化社会におけるエスニシティと老年期における文化喪失の過程と母文化に回帰する過程を明らかにした。在外日本人の高齢者の多くは、毎日の食や母語によるコミュニケーション、そして文化的活動によって生きる意味、平安、そして文化的アイデンティティを確認していることが明らかとなった。いずれのコミュニティも文化的に配慮がなされたケアを強く求めており、マイノリティ・エルダリーの尊厳は、エスニシティに対する適切な配慮によって実現可能になることが判明した。

研究成果の概要(英文)：The increasing pressure of globalization nowadays encourages people to migrate worldwide. Those who cross social and cultural borders eventually age, experience a series of losses and must deal with their ageing. The greater frequency of migration has made ageing an increasingly inter-cultural process. This research focuses on how the transnational migration of Japanese people to some European countries (the UK, the Netherlands, Sweden, and Germany) affects their later lives. The Japanese elderly living overseas have learned that food, language and cultural preferences in everyday life can provide them with the meaning and security of life and cultural identity. Therefore, culture-sensitive care with distinctively Japanese elements or culturally based facilities are, naturally, strongly demanded by the elderly. In this way, with proper consideration for the person's ethnicity, a sense of dignity of life can be activated and maintained.

研究分野：文化人類学 異文化コミュニケーション論

キーワード：グローバル・マイグレーション エイジング 在外日本人 老い 国際移動 文化喪失 エスニシティ ヨーロッパ

1. 研究開始当初の背景

(1) 文化人類学・心理学・社会学の分野では、文化は人間の成長過程で常に獲得されるものとして認識されてきた。しかしながら、文化は人間の一生を通じて、つまり、年老いて老人となっても、獲得され続けるものなのである。文化を蓄積するための記憶能力や文化を表現するための身体能力が急激に衰えてくる老年期におこる喪失の過程を、幼児期や青年期の文化獲得モデルで捉えることができるのであろうか。特に、複数の文化を獲得しながら老いを経験する者、例えば、海外に移住・在住する日本人やその子孫である日系人は、多数の異質な文化的要素が複雑に絡み合った喪失の過程を辿っているのではなからうか(金本 2009)。

(2) 老いは、極めて個人的な経験であると同時に文化的な現象でもある。誰もが身体の力強さ、美しさ、柔軟さ、社会的役割や関係、そして、将来における可能性などの喪失を経験していくわけであるが、その一連の過程は、個々が属する文化によって、また時代によって違った様相を呈している。

(3) 現代社会においては、特に先進国(西欧諸国)においては、少子・高齢化が確実に進み、老いは、最も深刻な社会問題として認識されるようになった。ウエルビーイング(心地よい生)を享受できる老後の生活のデザインの模索が、高齢者のみならず、ケア・ギバーや高齢者福祉政策の分野においても博搜されるようになった(鈴木 2010)。

(4) このような状況に加えて、世界のグローバル化の進展は、人の移動(グローバル・マイグレーション)に拍車をかけ、国・文化を越えた移住者たちもいずれは異文化で老いを迎えることから、今や、老いは、一国内(一文化内)に留まらない、異文化間で起こる文化の問題という様相を呈するようになった。その結果、移住者を受け入れるホスト社会側の濃い憂いともなってきた(小泉 2009)。

(5) 例えば、アメリカ社会やブラジル社会の中流層にうまく適応できたエスニック・マイノリティである日本人・日系人は、日本で老いを迎える「日本人」、同様の意味での「アメリカ人」や「ブラジル人」とは違った老いを経験している。いずれの社会のエスニック・グループの中でも、日系コミュニティは、高齢化が最も進んでいるし、ブラジルにおいては、1980年代からのデカセギというグローバル・マイグレーションによって、介護者の不在という問題を生起させた。

(6) 社会保障が充実していると言われているヨーロッパ諸国に在住する日本人も、そのコ

ミュニティの規模の小ささから、海外で老いを迎えることに漠然とした不安を感じ、それに対する備えを始めている。例えば、イギリス、ドイツ、オランダ、スウェーデンにおいては、日本人コミュニティが中心となって「老後を考える会」が設立され、相互扶助体制作りが開始されてきている。

2. 研究の目的

本研究においては、国際移動(グローバル・マイグレーション)によって、複数の文化を経て老いを迎える海外在住の日本人・日系人の老いに焦点を当て、日本人が異文化に適應するために文化変容を遂げてきた過程を検討し、これらの多文化社会におけるエスニシティと老年期における文化を喪失する過程(文化喪失:デカルチュレーション: deculturation)と母文化に回帰する過程(文化回帰:カルチュラル・リバージョン: cultural reversion)が相互に関連し合う領域に文化人類学的な考察を与える。特に、ヨーロッパ多文化社会における日本人・日系人の老いの過程を明らかにし、アメリカ・南米との比較研究からその理論化を試みる。

3. 研究の方法

(1) 本研究においては、調査対象をヨーロッパにおける日本人コミュニティとし、なかでも特に老いに対する関心が高いコミュニティ(イギリス、オランダ、スウェーデン、ドイツ)を選定して、フィールドワーク調査およびアンケート調査を実施した。

(2) 対象とした日本人コミュニティは以下のとおりである。

イギリス: 英国日本人会(Japanese Association in the UK)、Japan Care UK
ドイツ: 竹の会、まほろばの会、ミュンヘン友の会、ライン・ネッカーの会、ハンブルクの会、DEJAKの会
スウェーデン: シルバー会
オランダ: (財)日蘭シルバーネット(Nichiran Silvernet Foundation)

(3) 調査項目としては、以下の6項目である。

「日本人の国際移動(グローバル・マイグレーション)のグローバル・ヒストリー
各多文化社会における日本人コミュニティの成立の過程と高齢化の過程
在外日本人高齢者を取り巻く社会状況: 国家・家族・支援ネットワーク
在外日本人高齢者を支える福祉施設あるいは設立の試み
オーラル・ライフ・ヒストリーにみる老いの過程
各多文化社会における他のエスニッ

ク・グループの老いの現状

これをもとにヨーロッパ・アメリカ・南米多文化社会における日本人の老いの比較研究を行った。

4. 研究成果

(1) 近年におけるグローバリゼーションの波は、人々の国際移動(グローバル・マイグレーション)を促し、老いの問題はインターカルチュラルな様相を強く呈するようになった。社会・文化を越えた若者も、いずれは老いという喪失の過程を辿る。身体的な強さを失い、社会的な地位・役割を失い、家族を失うという喪失の連続を異文化という状況下で辿ることになる。

(2) グローバル・マイグレーションによって構築されてきた多文化社会におけるエスニック・マイノリティの老いは、エイジズムとエスニシティから生起する社会的不利益の 'double jeopardy (二重の危機)' (Dowd & Bengston 1975)、年齢に加えて文化、人種、宗教による 'triple jeopardy (三重の危機)' (Norman 1985) に瀕しているとも、あるいは、'cumulative dis/advantage (人生のライフ・コース全般において積み重なる不利益)' (Mutchler & Burr 2011)にあるとも指摘されている。モデル・マイノリティといわれている海外に居住する日本人、そして、その子孫である日系人もその例外ではない。

(3) 海外における日本人コミュニティの高齢化の問題は、この数十年、特に顕著となってきている。これは、明治以降の日本の移民政策によって南北アメリカを中心に展開されたクラスター・マイグレーション(集団によるマイグレーション)による日本人移住者の高齢化によるものだけではない。1970年代以降のバブル崩壊やリーマンショック直後の数年間を除けば、日本のヨーロッパ諸国への投資が進んでおり、ビジネスの絆が強くなるにつれて、日本人のヨーロッパへの移住が総体的に増加した。日本人の国際結婚の増加とも呼応しており、特に日本人女性がヨーロッパ諸国に結婚をとおして移住し永住者となるインディビジュアル・マイグレーション(個人によるマイグレーション)による結果でもある。イギリスやオランダで老いる日本人の大半は、このような国際結婚をした日本人女性であることが明らかとなった。

(4) これらの日本人女性が中心となって各地で「老後を考える会」が設立され、様々な活動が展開されてきた。しかしながら、彼女らの十数年間にわたるボランティア活動による努力にもかかわらず、海外で迎える老いの問題に対する大きな解決をみることはなかった。

(5) 各国の社会保障や医療システムを理解していても、家族である配偶者や子どもと同じ老いの不安を共有することはできないし、居住国に援助を求めることも、文化的・社会的脆弱性を帯びる「マイノリティ・エルダリー」であることを認めるには、「日本人」としてのプライドが邪魔をするケースが多く認められた。日本人間の相互扶助的な活動をすることも、ヨーロッパ的個人主義が邪魔をして、自らの老いの抜本的解決にはならないという極めて深刻な状況にある。

(6) 日本に帰国するリターン・マイグレーションには、何よりも、老いのタイミングをうまく計り、不動産等の煩雑な手続きを経なければならないことや、日本社会への再適応にも負担感が付きまとっている。

(7) 高齢期においては、言葉、コミュニケーション、食事が今まで重要となる。「国」「文化」「言語」「家族」「社会保障・医療システム」などの境界を越えたライフ・スタイルを持つ者の高齢期における尊厳は、高齢者の文化的アイデンティティと居住する国の医療・社会福祉システムとのせめぎ合いの中にある。

(8) 「高福祉」といわれているヨーロッパの諸国においても、毎日のケアで高齢者の尊厳をいかにして護るかという問いに対する答えは未だ見つけられていない。つまり、日本人高齢者が自ら考えるウェルビーイングを実現させようとするれば、ケアの現実と理想とのギャップを埋める自助的な取り組みが必要となってきた。

引用文献

金本伊津子(2009)「文化回帰」遠山淳編『日本文化論キーワード』有斐閣、pp94-95

小泉康一(2009)『グローバリゼーションと国際移動』勁草書房

鈴木七美 他編(2010)『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』、御茶ノ水書房

Dowd, James J. and Bengston, Vern L. 1975 Social Interaction, Age, and Ethnicity: An Examination of the "Double Jeopardy" Hypothesis (Unpublished Paper).

Mutchler, J. and Burr, J. 2011 Race, Ethnicity and Aging. In Settersten, R. and Angel, J. eds. Handbook of Sociology of Aging, pp.83~102. New York: Springer.

Norman, Alison 1985 Triple Jeopardy: Growing Old in a Second Homeland.

London: Centre for Policy on Ageing.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

金本伊津子、オランダで迎える日本人の老い：在蘭日本人の高齢化に関する意識調査、桃山学院大学総合研究所紀要、査読無、第41巻第1号、2015、pp.1-26

金本伊津子、日本人のグローバル・マイグレーションの今：イギリスにおける日本人の高齢化に関する意識調査(1)、桃山学院大学総合研究所紀要、査読無、第40巻第1号、2014、pp.1-24

Itsuko Toyama (Kanamoto) (ed.), Ethnic Dimensions of Ageing in the UK: A Case Study on the Wellbeing of Elderly Japanese: Proceedings of Public Seminar and Local Project Support Programme Supported by the Japan Foundation. St. Andrew's University, 査読無、2014、27 pages.

Itsuko Toyama (Kanamoto), A Quantitative Survey on Ageing and Wellbeing of Elderly Japanese in London. In "Ethnic Dimensions of Ageing in the UK: A Case Study on the Wellbeing of Elderly Japanese: Proceedings of Public Seminar and Local Project Support Programme Supported by the Japan Foundation." St. Andrew's University, 査読無、2014、pp.6-25.

Itsuko Kanamoto, The Role of Active Aging in the Well-being of Elderly Japanese in Brazil. Senri Ethnological Study, 査読有、80、2013、pp.97-108.

[学会発表](計7件)

遠山(金本)伊津子、速報：在蘭日本人の老いに関する意識調査、(財)日蘭シルバーネット講演会、2015年2月、囲碁会館(アムステルフェーイン、オランダ)

Itsuko Toyama (Kanamoto) and et al., Gap-filling Role of Civil Society Organizations for an Ageing Population in a Global Context: A Comparative Study of Three Welfare States – Japan, Britain and Sweden, XVIII ISA (International Sociological Association)

World Congress of Sociology, July 2014, Pacifico Yokohama (Yokohama, JAPAN).

遠山(金本)伊津子、異文化で老いる：北米・南米・ヨーロッパの日本人の事例をとおして、(財)日蘭シルバーネット講演会、2014年3月、囲碁会館(アムステルフェーイン、オランダ)

Itsuko Toyama (Kanamoto), A Quantitative Survey on Ageing and Wellbeing of the Elderly Japanese in London, Ethnic Dimensions of Ageing in the UK: A Case Study on the Wellbeing of Elderly Japanese (Public Seminar and Local Project Support Programme Supported by the Japan Foundation), March 2014, The Japan Foundation, (London, UK).

Itsuko Toyama (Kanamoto), Pioneers of Active Ageing in Brazil: Searching for Wellbeing of Elderly Japanese in Intercultural Context, The 42nd Annual Conference of the British Society of Gerontology, September 2013, University of Oxford (Oxford, UK).

Itsuko Toyama (Kanamoto), Global Migration and Active Ageing of the Japanese Overseas: A View of Wellbeing for Surviving in Multicultural Societies -- the USA, Brazil and the UK, The 17th World Congress of the IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences), August 2013, University of Manchester (Manchester, UK).

Itsuko Toyama (Kanamoto), Japanese Migration and Ageing in Intercultural Context: Later Lives of Japanese Overseas in the USA, Brazil and the UK, COMPAS (The Centre on Migration, Policy and Society, University of Oxford) Working in Progress Seminars. May 2013, University of Oxford (Oxford, UK).

[図書](計1件)

金本伊津子 他、春風社、異文化間コミュニケーション事典、2013、全617ページ

6. 研究組織

(1)研究代表者

金本伊津子 (TOYAMA (KANAMOTO), Itsuko)

桃山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：60280020